



え・たむらかずみ

腹の虫は なぜ騒いだか

あ る程度の年齢を重ねると、
たいいていの人が、体のどこ

かに不調を抱えて生活していること
とでしょう。慢性的なものから、
突発的なものまで、体調が悪いと、
気分が沈みがちになります。また、
予期せぬ病に見舞われれば、(どう
なるのだろう) という不安にも苛
まれます。

折角(せっかくな)った病気を、ただ
それだけとして直しては惜しい、勿
体(もったい)ない。今や病気をこわ
がる、恐れる時代は過ぎた。よろこ
んで、これを利用する時代がきた。

これは、心の状態や生活のあり
方と、病気の関係を述べた『万人
幸福の葉』第七条の一文です。純
粋倫理では、ただでさえ暗い気持
ちになりがちな病気を前向きに捉
え、「よろこんで、これを利用する」
ことが肝要であると説きます。
では、利用するとは、どのよう
なことでしょう。

年度末の業務多忙なある日、K
さんは突然の体調不良に襲われま
した。通常通り出勤したものの、
みるみる具合が悪くなり、激しい

吐き気と腹痛に襲われたのです。

病院に駆け込むと、虫垂炎(ち
ゆうすいえん)という診断でした。
手術の必要はないとのことですが、
薬を飲みながら、しばらく自宅で
療養することになりました。

その結果を会社に報告すると、
上司から「仕事のことには気にせず、
しっかりと治してきなさい。すべ
てお医者さんにお任せして、この
際だから、お腹の黒いところもき
れいにしてきなさい」と言われた
のです。その時は単なる軽口だと
思った上司の言葉が、体調が回復
するとともに、Kさんの脳裏に蘇
ってきました。

〈繁忙期に休んで、職場に迷惑を
かけてしまった。仕事もできない
のだから、今だからできる実践に
取り組んで、上司に言われた腹黒
さも洗い流そう〉

そう考えたKさんは、自宅のト
イレ清掃を始めました。感染症予
防のため、マスクとゴム手袋をし
て、清掃後のアルコール消毒を徹
底しながら清掃を続けました。

考えてみれば、トイレ掃除はこ

れまで妻に任せきりでした。自身
のこれまでの生活を省みながら、
Kさんは次第に、病気になるべく
してなったのだと感じるようにな
ったのです。

〈食事や排泄など当たり前のこと
への感謝を忘れ、職場や家庭でも、
してもらって当たり前という気持
ちで生活していた。腹の黒い虫が
騒いで、腹痛に襲われても、文句
は言えないな〉

病気をきっかけに感謝の心を深
めることができ、一皮むけた感覚
を得たKさんでした。

一般的に、病気になれば診察を
受け、薬を服用するなどして症状
を和らげます。純粋倫理では、そ
れだけに留まらず、病気という苦
難をきっかけに生活態度を見直し、
その病気の原因になっている心の
問題にもメスを入れ、実践という
治療を行ないます。

この外面的治療と内面的治療が
噛み合った時、病気はただ苦しみ
をもたらす厄介者ではなく、私た
ちをさらに向上させてくれる、喜
ぶべき現象となるのです。